

月刊 ウィーン

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊33年目 **Nr. 383**

GEKKAN-WIEN 2021年11月号



Junge Frau bei der Toilette Tizian (um 1488–1576) Um 1515 Leinwand, 99 × 76 cm
Musée du Louvre, Département des Peintures, Paris © RMN-Grand Palais (musée du Louvre) / Franck Raux

杉本純の原子力の話II ウィーンと京都 116

東京電力は十月二日より、首都圏を対象に福島県産品の美味しさや魅力を伝える「発見！ふくしま」キャンペーンを実施している。「ふくしま！海と大地の収穫祭」と銘打ち、前回に続いて新型コロナウイルスによる影響にも配慮し二月十七日までの期間、首都圏や福島県内の小売店における県産品の販売促進イベント、飲食店とコラボしたグルメフェアなどを展開する。収穫時期を迎える農産物の他、水産物の販売促進にも積極的に取り組み、事故の当事者として風評被害の最大限抑制、払拭に努める。

東京電力では四月に、福島第一原子力発電所の処理水取扱いに係る政府の基本方針決定を踏まえた対応の中で、風評被害対策として福島県産魚介類「常磐もの」の販路開拓を強化、拡充していくとしている。今回のキャンペーンでは、「常磐もの」料理約二万食を提供し、美味しさ魅力を伝える「お魚フェスティバル」を一月一九〜二二日に東京・日比谷公園で開催する予定（新型コロナウイルス感染症拡大の状況により開催方法に変更が生じる場合あり）。



<https://www.jaif.or.jp/journal/japan/10060.html>

この他、キャンペーン期間中を通じ、飲食店や百貨店・スーパーと連携し、福島県産食材を使用したメニューを提供するキッチンカーを使用している。

の出店（首都圏各地）、福島県産米、福島牛「常磐もの」の販売促進を行うほか、一月からオンラインストア「ふくしま市場」の割引キャンペーン、首都圏の飲食店と連携したグルメフェアなども予定されている。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市出身の偉大な化学者（その三）を紹介したい。マックス・ペルーツは、一九一四年に繊維製造業を営む父の下ウィーンに生まれた。両親は彼が法律家になることを望んだが、学校では化学に興味があり、両親を説得してウィーン大学化学科に進学した。三六年にキャヴェンディッシュ研究所のバーナルのX線結晶学のグループに加わった。第二次世界大戦中はバイクリートという特殊な氷を使つて空母に給油するプラットフォームを造ろうとするハバック計画画に参加した。五三年にケンドールと多重同型置換法を開発し、ヘモグロビンなどタンパク質の立体構造を解明した。その功績により一九六二年にノーベル化学賞をケンドールとともに受賞した。同年に医学研究協議会のMR C分子生物学研究所をケンブリッジに設立し、七九年まで議長を務めた。五四年に英国王立協会フェローに選出され、六五年にはウィーン大学名誉博士号を授与されている。科学的市民としてペルーツは、科学はパラダイムシフトにより進展するとするトーマス・クーンの考えは、不公平な見方と批判している。

では福井教授の講義を受講している。大学の教養課程では考古学研究会に入り、多くの時

間を遺跡現場で発掘に充てた。大学院修士課程修了後、企業での研究開発に関わることを望み、旭化成に入社した。吉野博士は、炭素材料を負極として、コバルト酸リチウムを正極とするリチウムイオン二次電池の基本概念を八五に確立し、携帯電話、ノートパソコン、デジタルカメラ、ビデオ、携帯音楽プレイヤーをはじめ幅広い電子・電気機器に搭載され、人類への多大な貢献をしている。この功績により、二〇一九年にノーベル化学賞を受賞した。

余談であるが、ペルーツが構造を解明したタンパク質の一つであるプロテイン飲料を筋力後に飲んでい。コロナ禍における若者に向け「学習、勉強、研究の遅れなどで不安に思われているかも知れませんが、逆に天から大きな使命を与えられたと捉えてください。それをモチベーションにして頑張っていたらいいと思います。力強いモチベーションがあれば、どんな困難も乗り越えることができます」との吉野博士のメッセージは心強い。今月も両市に関連する偉大な化学者を紹介することができた幸運に感謝しつつ、編集部に教えてもらったペルーツラボのホームページにある写真を掲載させていただきます。



■杉本純 元京都大学教授 元原子力機構ウィーン事務所長

杉本純の原子力の話II 「ウィーンと京都」の第1回からの全記事が次のサイトに掲載されています：<http://wattandedison.com/Sugimoto.html>

クリスマス・マーケット

コロナ禍で昨年は中止されたが今年は開催する（9頁参照）。各マーケットによってコントロールは異なる。例えば市庁舎前広場の場合、6箇所の入口で2,5-G＝「ワクチン接種証明」または「回復（抗体）証明」または「PCRテスト陰性証明」を提示する。旧AKH大学キャンパスの場合、入口と物品販売スタンドでのコントロールは無く、飲食スタンドの領域で2,5-Gが求められる。シュピッテルベルクの場合、住居や事務所に行くのにマーケットを通らなければならない所では、マーケット領域に自由に入出りできるが、物品販売スタンドと飲食スタンド利用するには2,5-Gリストバンドを着用する必要がある。

